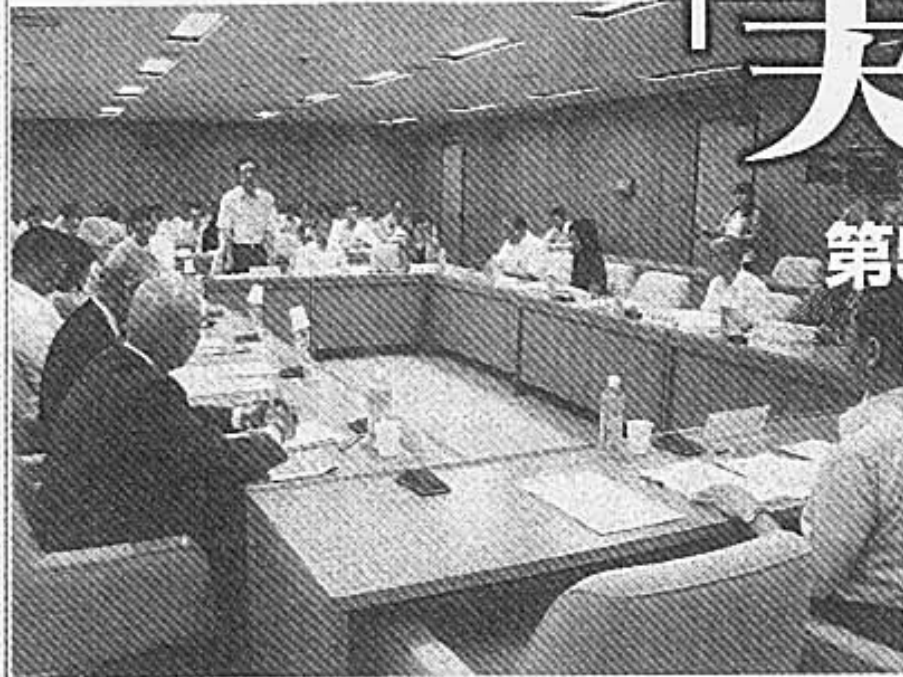


# 「美しい分煙社会」の作り方

## 第5回 神戸に激震! 「例外なき強制禁煙」条例 須田慎一郎

(ジャーナリスト)



検討委員会は突然、打ち切られた

日本人はいま、「復興」とは何か、「街づくり」とは何かを問われている。

16年前に阪神・淡路大震災に見舞われ、見事に復興を遂げた神戸の街は、多くの点で東北復興のモデルケースとなるだろう。

その神戸を新たな激震が襲っている。震源は、兵庫県が成立を急ぐ「禁煙条例」である。

本シリーズではこれまで、政府が法制化を目指す「受動喫煙防止法」(仮称)、神奈川県が昨年4月に導入した「受動喫煙防止条例」を検証してきた。いずれも喫煙者「悪」と決めつけ、肝心の国民生活や国民経済への配慮を欠く点に問題があり、多くの悪影響をもたらしていることがわかった。

兵庫県が神奈川に続いて全国2番手で導入しようとしている条例は、それらをはるかに上回る「マグネチユード」である。分煙すら認めず、中小業者の例外もない「禁煙強制」だからだ。

気になる内容を検証する

奈川や政府のケース同様、最初から公正・中立に疑問符のつく人選だった。本シリーズで紹介したように、神奈川は条例導入に

### 「日本人の美德こそ大事」

この条例案の最大の問題は「例外を認めない」という強権姿勢にある。それは先行した神奈川と比べても際立っている。

前に、まず条例制定に向けた経緯を取り上げたい。兵庫県が有識者を集めた受動喫煙防止対策検討委員会を立ち上げたのは昨年6月。以来、昨年は7回の議論を重ねてきたが、今年初めとなった5月23日の第8回検討会で波乱が起きた。

冒頭、いきなり県の事務局から「報告書の素案」が発表されたのである。

「そもそもこの条例は井戸



南京町の飲食店では自主的にステッカー表示(右)を進めている



敏三・知事の一存で進められてきたものです。そして前回の検討会から5か月余り会議が開かれないまま、突如、県が一方的にまとめた報告書が提出された。その背景には不可解な人事もあった。今年4月に秘書課長だった知事の腹心が急に条例担当の局長に任命され、一気に動きが加速した。条例の是非を検討するという姿勢ではなく、条例成立が絶対条件なのでしよう」

実際、6月

30日に開かれた第9回を最後に検討会は打ち切られ、今後は県の報告書を元にした条例案が議事に提出される

より多くの店舗を対象に含めようとしている。

さらに大きな問題は、飲食店などの現場に周知徹底がまったくなされていないことである。神戸市内の飲食店を取材したところ、「そんなの全然知らん」という答えばかりで、賛否を問うことさえ難しい有り様だ。

自由経済、自由競争を大原則とする民主主義社会だからこそ、個々の努力と相互理解によって喫煙者と非喫煙者が共存する「美しい分煙社会」が可能になる。逆に規制によって強権的に禁煙や分煙を押しつけられ、神奈川のように経済は停滞し、中小企業が大量倒産に陥り、住民は他県に逃げてしまふ。役人や政治家の浅はかな知恵だけでは社会は発展しないのである。だからこそ検討会で衆知を集めるといふ手続きが重要視されてきたのではないか。

神戸を代表する中華街である「南京町」の商店街振興組合をまとめる曹英生・理事長の言葉は重い。「発展途上国ならまだしも

る見通しだ。「こんなやり方は拙速」(入江理事長)という指摘はもっともだ。

井戸知事は「名うての煙家」として知られる。

「条例のアイデアは本人の発案。これを今の任期の目玉政策にしようとしている。来県したJ-T幹部を邪険にしたほど力が入っている」(県政関係者)

大阪府の橋下徹・知事への強烈な対抗心があるともいわれる。井戸氏は官僚出身で、橋下氏とはソリが合わない。「関西3空港問題」を巡っては、橋下氏の伊丹空港計画に真っ向から反対した。受動喫煙対策でも、橋下知事が公共施設での全面禁煙を表明したことから、「井戸知事はそれを上回る実績を欲しがった」(前出の県政関係者)とも指摘されているのである。

その動機の真相はともかく、15人いる検討会メンバーの構成を見ても、実際に影響が及ぶ業界などを代表する3人を除くと、残り12人は医療関係者など規制賛成派で占められている。神

日本は成熟した民主主義国家です。もっと現場の声を聞いて、日本人の美德である「折り合い」をつけなければいけません。神戸が大震災から復興できたのも、皆が周囲のことを考えてきた細かい気配りをしてきたからです。街は規制で成り立っているわけじゃない。

南京町はすでに店頭で「禁煙」「喫煙可」などと表示する取り組みを独自に進めており、お客さんを選んでからおうという考え方でやっています。それで秩序が確立されているのに、新しい規制は必要ありません。

そこそが街づくりであり、神戸の「奇跡の復興」を支えた住民パワーだったのである。第一、進取の精神と改革気質に富んだ神戸に、役人が上から押し付ける「禁煙ファッショ」はまったく似合わない。

この条例が成立すれば、大袈裟ではなく神戸は再び激震に襲われる。今回は、条例がもたらす「死に絶える港町の情景」をレポートする。(この稿続く)